

2025年度

きたおおじ保育園

園だより 2月

新しい年が始まり、子どもたちの元気な声が園内に戻ってきました。久しぶりの登園に、少し緊張した表情を見せる仲間もいましたが、すぐに笑顔が広がり、友達や保育者との再会を喜ぶ姿がたくさん見られました。



<お家の人たちとの触れ合い>

特に印象的だったのは、お正月休み明けに言葉がぐんと増えた仲間が多かった事です。「ぼうし」「バス」「アンパンマン」「どうぞ」などの単語が増えたり、「これ美味しい?」「もういっぱい!」「せんせいだっこして~!」など、気持ちを言葉で伝えようとする姿が見られるようになったりと、それぞれのペースで大きな成長を感じています。きっとお家で、パパやママ、お家の人たちとたくさん話し、笑い、触れ合う時間を過ごしてきたのだろうと、子どもたちの姿から温かな様子が伝わってきます。



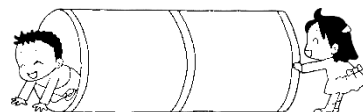
<伝えたい気持ち>

一方で、「まだ言葉が出なくて心配です」と感じておられる保護者の方もいらっしゃるかもしれません。言葉の発達には大きな個人差があり、理解はできていても言葉として出てくるまでに時間がかかる子どもも少なくありません。そこで大切なのは、「伝えたい」という気持ちが育っているかどうかです。指差しや表情、声のトーンなど、言葉以外の方法でしっかりとやり取りができていく姿も、発達の大切な過程です。きたおおじ保育園では一人ひとりの育ちを丁寧に見守りながら、その子なりの表現を大切に受け止めていきますので、どうぞ安心して見守っていただければと思います。



<ハイハイの大切さ>

また、言葉の育ちと深く関係しているのが「体の動き」です。とくにハイハイなどの四つ這いの動きは、体幹やバランス感覚を育てるだけでなく、脳への刺激にもつながり、発語の土台作りにとっても大切な運動だと言われています。近年、ハイハイの期間が短いまま歩きはじめる子どもが増えており、その場合、体幹や体のバランスがまだ十分に育っておらず、「よく転ぶ」「姿勢が安定しにくい」といった姿につながることもあります。ただし、赤ちゃんの時にハイハイが少なかったからといって心配し過ぎる必要はありません。四つ這いの動きは、今からでも十分に育てていくことができます。きたおおじ保育園では、トンネルくぐりやマット遊び、段差の上り下りなどを取り入れながら、自然に体をたくさん動かせる環境づくりを意識していきます。



<丁寧な言葉がけと温かな関わり>

2月にはいりました。1年で一番寒い季節を迎えようとしています。これからも、子どもたちの「伝えたい」「動きたい」という気持ちを大切にしながら、丁寧な言葉がけと温かな関わりを重ねていきたいと思っています。ご家庭と保育園とで子どもたちの育ちを一緒に見守っていただけると幸いです。

主任保育士 糸井恵太



きたおおじアルバム

